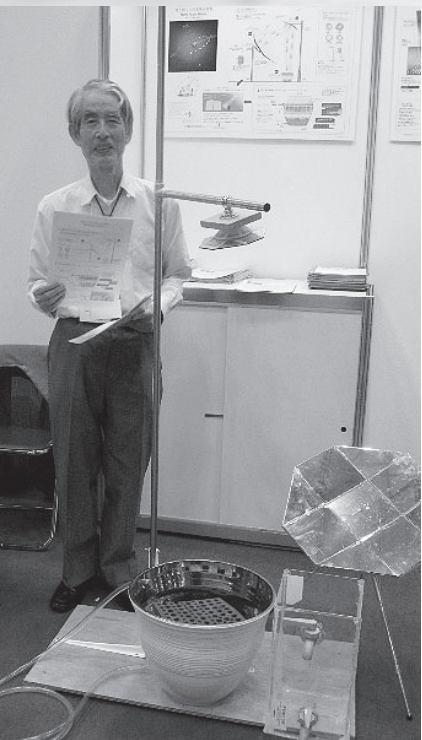




第4回新エネルギー世界展示会報告

学長：海野 和三郎

新エネルギーとは再生可能エネルギーのことである。その展示会が、6月24～26日、幕張メッセで開かれ、NPO法人東京自由大学もアカデミックコーナーに、「海と森と人の和の太陽エネルギー工法」を出展した。実際に展示したのは、神田一番商事稲垣政二さんと東海大大学院博士課程の村岡真澄君の作製したミニチュアモデルと知恵の編集と継承研究所・進士多佳子さん作成のカラープリント説明図、それに実用規模のものとして、造形美術家・近藤高弘さん作製のセラミックス・ソーラーポットであった。家庭用1kW発電で、石油火力より格段に安く電力を得ることを目的とし、辻内式非結像集光で手軽に20倍集光、森の役目をする太陽電池を水冷、熱エネルギーを対流防止で保温のよい海の役目をするスポンジ入のソーラーポット(海野多賀式ポーラス・ソーラーポンド)に入れ、20分で沸騰させてタービンを廻して発電するのが原理である。集光によって、比較的小さな太陽電池パネルを使って発電し、森の矢吹効果

のように熱も十二分に利用するのが特徴であるが、集光装置が高くては元も子もない。大木式極シデロスタットと辻内式非結像集光を組み合わせた太陽電池パネルと同程度の価格の集光系が適当である。太陽電池の改良や単なる集光では、万年億年かけて貯めた石油を100年で使う逆効率に勝つのは容易ではない。

最終日の26日に説明会があり、装置の説明を大木健一郎さんが行った。その前に、海野が一言、この10年が21世紀人類の生存の危機でもあるが、人類進化の絶好のチャンスでもあるという話をした。100万年前、猿人の時代から、ヒトは体温を保つのに食・衣・住を発明し、環境変化に生き残ってきた。この数十年の間、人は化石燃料を濫費して仕事の効率を上げ、結果として、エネルギー・地球環境・人口食料問題の危機に直面した。あと10年20年で石油ピークが来る。今が人類進化のチャンスだ、と述べた。

(「私達の教育改革通信」第131号より抜粋・修正)

開催ゼミナール報告 ■谷上 康子(担当・運営委員)

自主ゼミ『感じるおきなわ』講師：佐藤 壮広先生

聖なる地、琉球・沖縄のことを勉強したいという思いが私をかり立て、佐藤先生の講座・ゼミの『感じるおきなわ』の世話役を引き受けました。《前期・第1回目》沖縄の歴史を感じる《第2回目》沖縄の文化を感じる《第3回目》沖縄のひとを感じる——いずれも10名～12名の少人数の参加でしたが、“琉球・沖縄”のことをすでに勉強しているひとも、勉強していない私も“琉球・沖縄”について感じることを、一人ひとり語れる、なんとも心地よい講座・ゼミでした。佐藤先生、受講者の皆さまありがとうございました。

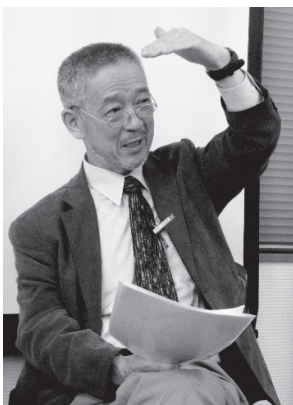
主催ゼミ『仏教と倫理を見直す』で学んだこと 講師：島蘭 進先生

島蘭先生の講座・ゼミは4年目をむかえました。今回2009年度は『仏教と倫理を見直す』というタイトルで、第1回目の“近代日本仏教と正法理念”第2回目の“仏教と正法理念”第3回目の“日本仏教の平和思想と正法理念”いずれも3回の講義は“正法理念”がキーワードでした。

正法とは正しい道理であり、釈迦滅後、500年から1000年の間仏教が正しく世に行われていた時期のことです。

日本仏教が、その正法理念(理想的概念)とどのように向き合ってきたのか、という講義でした。

2010年度も島蘭先生の講座・ゼミを予定しております。皆さま、ユニークな質問・疑問をたずさえてご参加ください!!



島蘭 進先生(講師)



「感じるおきなわ」ゼミ風景

追悼・出口信一先生

講座・人類の知の遺産「植芝盛平」12月12日の講師をお願いしておりました出口信一先生が9月27日に他界なさいました。8月に60歳になられたばかりでした。霊界物語の宣使として、生涯を捧げられたその至誠と献身的なご活動に、心よりの敬意と哀悼の意を表します。

※12月12日の講座・人類の知の遺産「植芝盛平」につきましては、坪井香譲氏(メビウス気流法の会代表)が講師をお引き受けくださいました。

事務局だより

渡辺 恵実(事務局員)

7月に調子の悪くなったコピー機を買って替えました。以前のものは寄贈していただいたもので長いこと重宝に使わせていただいていたのですが、定期メンテナンスが2年前からできなくなっていました。今回のものも中古品ですが、最新のものに近い便利な機能が付いています。両面コピーもワンタッチ、コピーのスピードも速くなりました。とはいっても、講座の際に資料が足りないと、追加印刷にはやはり、時間や手間を取られます。講座にご参加の際にはご予約していただくと助かります。

●http://homepage2.nifty.com/jiyudaigaku/ ●E-mail: jiyudaigaku@nifty.com

Newsletter Vol.13

2009年(平成21年)10月10日発行

編集・発行 NPO法人東京自由大学 / 事務局 〒101-0035 千代田区神田紺屋町5 T.Mビル2F TEL&FAX: 03-3253-9870
デザイン (有)アンビエンス / 印刷 (株)ベクトル

NPO法人 東京自由大学

Newsletter

2009.10.10 Vol.13

東京国立近代美術館でポール・ゴーギャン展が開催されていた。初めてゴーギャンの絵を見たのは小学校の美術の教科書であった、と思う。そして、ゴーギャンを意識したのは、40歳の頃であった。人は何のために生きるのか……生きるとは何か、を考えていた時、《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか》という題名のついた哲学的遺言ともいべき作品を知ってからである。2009年夏、ゴーギャンの畢生の大作をこの目に焼き付けたくて、私は問いかけの前に立った。Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going?

1999年2月に産声を上げた東京自由大学。 設立11年目を迎えさらなる歩みを広げるべく、10月には〈三省祭り〉、 12月には特別企画〈鼎談〉と、ビッグなイベントを計画しています。

慈愛に満ちた忘れられない日がある。2001年1月27日。三省さんは病を押して東京に来られ、私たちは最後の講話となった「存在の車輪は永劫に回帰する」を受講した。この日、奇しくも東京に大雪が降り、全てを純白にして祝福してくれていた。三省さんはこの風景を〈南無浄瑠璃光 雪の薬師如来〉と言われ、〈東京の街を清めてくれている。自分自身もこの雪に慰められ、癒されている。うれしいなあ〉と言われた。そして7ヶ月後、魂の故郷へ還って逝かれた。(享年62才)

屋久島に移り住み 森羅万象こそをカミと仰ぎ 原初の人さながらに大地を耕し 祈り 詩作活動をされた哲理の人。昨年、三省さんを愛する人々の呼びかけで「山尾三省生誕70年祭」が行われた。東京自由大学では、三省さんの思想や詩をオルタナティブな文化として語り継いでいきたいと願い、年に一度〈三省祭り〉を開催する事とした。2009年度〈三省祭り〉のシンポジウムは、神田神社のご協力を得て、山尾家の歴史が刻まれた神田明神で行う。翌日は、音と詩による即興ライブ。参加ご希望の方は東京自由大学までお申し込みください。

シンポジウム「とことん語る・山尾三省」

出演: 立松 和平(作家)
長屋 のり子(詩人)
高良 勉(詩人)
鎌田 東二(京都大学教授・宗教哲学者)
司会: 三島 悟(元山と溪谷社出版部編集長)
日時: 10月31日(土) 13:00～17:00
会場: 神田明神 資料館B1
参加費: 前売2500円 当日3000円

即興演奏+ポエトリー・リーディング 「とことん語る・café SANSEI」

出演: KOW(ギター・ヴォイス)
野村 雅美(ギター)
宇々地 (古代土笛・他)
日時: 11月1日(日) 14:00～16:00
会場: 東京自由大学
参加費: 1500円(ドリンク付)

10月〈三省祭り〉「アニメズム」という銀河へ 12月 特別企画〈鼎談〉「ほどきとむすびの宇宙」

まるで天上からの贈り物のよう。仏教の世界から玄侑宗久師。神道の世界から鎌田東二先生。宇宙の世界から佐治晴夫博士。幅広い領域で活躍され、現代人の大きな支持を得ておられるお三方の鼎談が実現する。題して「ほどきとむすびの宇宙」。

事の起こりは、昨年12月「夢みる宇宙と音楽とー宇宙に学ぶ人生の歩き方ー」の講演後、佐治先生のひと言からであった。

3年前、中外日報社が対談シリーズ「日本人の宗教観」を企画し、玄侑氏・鎌田氏の対談を掲載している。鎌田 ムスビというのは、ものを結ぶのではなく苔むすとか、泡のように現れるとか、まさに混沌から万物が形成される力そのものです。

玄侑 最初何もない状態から結ばれて神が生まれてきたとするならば、神を生んだ場というのははまだほどこけているわけですね。

鎌田 神すらもないということです。

玄侑 それって仏ですよ。

鎌田 最初に神聖な無があった。神々もそういう中から現われ出してくる。

玄侑 西田幾多郎が言う「絶対無」というものですね。

「ムスビ」が神で、「ほどけ」が仏なら、宇宙は「ほどきとむすび」なのか……。

むすばれていのちのはてにほどかれて
そらのかなたへ とけてちるらむ (鎌田東二)

私たちは「宇宙の渚」にたたずんでいる。と、言われる佐治博士。12月18日の夜は、先生のピアノの調べに耳を傾けながら、「ほどきとむすびの宇宙」の渚に佇んでみませんか。 吉田 美穂子(担当・理事・運営副委員長)

特別企画〈鼎談〉「ほどきとむすびの宇宙」

出演: 佐治 晴夫(鈴鹿短期大学学長・理学博士)
玄侑 宗久(作家・福聚寺住職)
鎌田 東二(京都大学教授・宗教哲学者)
日時: 12月18日(金) 18:30～21:00
会場: 中央区立日本橋公会堂4F(日本橋劇場)
参加費: 前売2500円 当日2900円

夏合宿『日本最奥の秘境の聖地・天川～高野山をめぐる』

空海と姫神ネットワークの謎〈知行一致のスーパーマン・弘法大師空海〉

2009年8月26日(水)～30日(日)

「高野の天空をあまかけるスーパーマン空海と煌めく人間星曼荼羅」

石毛 教子(会員)

知行一致のスーパーマン弘法大師空海の足跡を辿る今回の旅では、その所要所要所でただ者ではない方々と出会い、キラ星のような方々と同じ時代を生きて、同じ空気を吸っている事に感動した。もうそれだけでも未来に希望が持てる気がしてきた。キラ星の皆様はそれぞれが、それぞれの場で花も実もある美しいものを結実する事に真剣に向き合っておられた。そのお姿を見るだけでもありがたく、自らの姿勢を糾される思いがした。柿坂宮司様、近藤先生、がニッポンーじゃない、世界一美しい穴窯のお話に目をキラキラさせる度に私の目にも美しい銀河ステーションから神々しい宇宙船が降り立つ姿がイメージされたし、確かに天河神社の門前に天河焼きの陶器を求めて門前、市を成す光景が目に見えようだった。高野山の奥の院をご案内下さった広瀬行法師様は偉丈夫でガンダール像を思わせるようなお顔立ちでいらした。何え僧籍を目指されたのは神戸の大震災に遭遇した事だとか。来年からは熊野のお寺様に赴任なさる由。ご案内下さる内容にも彼の願いや思いが託されていて、このような方がやがて名僧という人になっていくのだろうなあ、イヤなって頂きたいと祈る気持ちになりました。

無量光院での勤行が済み、すっ～とただならぬ気配で暗闇の中から何とも言えぬ香しい乳香のようなお声でご法話をして下さった土生川正道前官様はこれぞ御坊様というような方でいらした。ずっとお探していた方にやっと巡りあえたような喜びに包まれた。あのままあそこで出家得度してしまいたい位だったが、あちらのご迷惑になる事と踏みとどまった次第である。

根来寺ではものすごくシャイな牧有恵師の巧みな話術に陶然となり、人にもものを伝える時の言霊はそれぞれの発する人により様々な波動で伝わってくるのだなあと感じ深い思いがした。

奇跡と偶然と必然の絡み合いからドラマチックな展開ではるか東京から悠久の歴史を持つ丹生都比売神社に納まれた丹生宮司ご夫妻。このお二人の軌跡を辿るだけでも弘法大師空海様の千年を超えた企みは今実現の時を迎えつつあると思わざるを得ない気持ちでした。

あの青青とした田畠に恵まれた天野の里が農というカルチャーと神への捧げものの芸能で嘗ての隆盛を取り戻す事は必定だと思った。

確かに私たちの旅は鎌田先生がおっしゃるようにムスビ(産霊)とほときの現場を辿る旅であったようだ。この度の旅で頂いた精気を薪と灯し、私は私の周りを灯したい。

「聖地歩行」

鈴木 龍太(会員)

自由大学の合宿は初めて参加させて頂きました。6月、大峰修行後に訪れた天河神社の清涼な佇まい、静けさに心を打たれ、きっとまた訪れたいと思いましたが、その機会はすぐに、しかも空海と一緒にやってきました。今回、天川では有難くも禊や神前にて参拝させて頂き、身が引き絞まる心持ちでした。数々の力作の天河火間での焼き上がりが楽しみです。快晴の天川の朝、宮司様にお見送りを頂き一路、立里から高野山へ。今まで高野を幾度か訪れて高野山の静寂さ、無限の拡がりを感じる伽藍から、さすが大師！と感じていましたが、厳しく清々しい立里荒神社や無邪気に明るい天野の里、静かな祈りの町石道、紀伊半島のどこまでも山並みが連なっていく自然の豊かさの中で、空海曼荼羅のスケールの大きさや高野山と天川、立里、天野の里は一体の高天原、浄土であることを体感できました。今回の合宿に参加して初めて、大都会の長安、京都で活動した空海が修行の場として高野山を選んだ理由が解った気がします。

無量光院の朝勤は、薄暗い本堂で護摩木のぼちぼち燃える音、煙、匂いの中での平安の声明は夢の続きか、別世界にいるかのような清浄なひとときでした。土生川前官様の御法話を頂くことも叶い、高野山にいる幸せを実感しました。本来、邪魔なものに心に染み入りました。忙しい日常でも、忘れないようにしたいと思っています。いつか高野山を再訪する折には、かつて空海が歩いたように立里荒神社から町石道、丹生都比売神社にご挨拶をして、大門からお大師さんに会いに行きたいです。銀河鉄道に乗って満天の天の川を旅したようなキラキラの聖地歩行でした。

「知行一致のスーパーマン弘法大師空海」

大竹 紀恵(会員)

この参加は、恥ずかしいですが弱くてぐずぐずの心、悲しくてさびしいですが、実感が湧かず反発ばかりしてしまう心にどうかまことの感情をと、心の底から求め

てのことからでした。

空海研究家の富田弘子先生は、『空海は、『誰の中にも神がいる』『人と人との繋がること、ネットワークが大切』と言っている。』と。(以下も自分流の解釈となっているかもしれませんが。御容赦下さい。)空海の本を音読して泣きました。

合宿は空海の行場天河の地から。友はこんな話をしてくれました。「まず自分を愛しているか。自分を愛せなくては人を愛せない。」「下駄屋と傘屋の息子を持つ親の話。いつも嘆いて暮らすのか、良かったと思って暮らすか。」「考えすぎ。考えない方がいい。」「燈籠流し、陶芸、禊。でもまだ焦って実感が湧きませんでした。沢山の沢山の事で力づけて下さり共に夜空を見上げた先輩。翌朝一人辨財天社の五十鈴を鳴らし祈願致しました。

高野山無量光院さんでは、大勢の方の祈願札を焚く朝の勤行。土生川正道前官様の御顔は忘れられません。「あの嫌いな人、この嫌いな人を無くし、和して抗せず。お腹の下に力を込めて呼吸し何も考えない。」

鎌田東二先生は、車酔いの私に、『おんそらそばていゑいそわか』と唱え続けられ治る。』と。心配性も救って下さる賜物です。

氣を使い過ぎ、身を引く姿を見て「あなたはまだ本当の顔ではない。もっと前に出て。」と、むんずと腕をつかんで言って下さった暖かい御手。

「どうにかなるもの。と言っても苦しいでしょうが、もっと下の人居る。」と手を握って下さった大きな御手。

「何でも自分が楽になるように考えて、体の痛いのも、これがあってももっと大きな事を解らせて頂いた。日々の暮らし、家庭、親子の交流があって、その上でこういう所に来られる時に何う。無理な時はまだ御縁が無いのだと思って……。」有り難かったです。

空海さま所縁の地。大自然の鏡に映った姿を見て恥ずかしかったです。固まり、身を引き、へんてこりんになるのだと。これからは「感謝の心があれば変わる」の言葉と、真言をまことの杖として歩いてゆきたいと存じます。

空海さま、先生、皆さまのお陰です

多くの苦しんでおられる方が救われますように。

—横浜にて虫の音に囲まれ— 合掌

「合宿で感じたこと」

戸田 善斉(一般・大学生)

自分は今回で三度目の夏合宿となりました。毎回参加するたび、色々と志の高い方々との交流や聖地巡礼を巡って強い刺激をもらっています。今回の合宿では天川から高野山へと行く中で、色々な人々との交流を通して祈りの大切さを改めて感じました。宗派や宗教を問わない祈りそのものの大切さを感じました。

まず、天川、高野山という場所を訪れたのは生まれて初めてで、今まで自分が行ったことのある場所とは違う空間だったというのが新鮮に感じました。そして、素晴らしい神社や仏閣、またその宮司さんや御坊さん方のお話を聞いたこと、また、高野山では、鎌田先生方と共に高野山座主宅を訪れ、自分もそこに居合わせることで、話を聞いたことは自分にとってとても良かったと思います。

中でも一番印象に残っているのは、合宿三日目に井上ウィマラさんと車で天川から数十分離れた場所にある山を歩きに行き、その山の空間の黙っているような静けさ、落ちてゆく夕日が木々の隙間から差込む光景がとても感動的でした。なぜか、井上ウィマラさんに行った沈みかえった山の空間と、陶芸ワークショップで自分が作ったひび割れた舟のイメージが重なり合って、そのことがやけに鮮明に自分の心に深く残っています。

「NPO法人 東京自由大学 夏合宿研修旅行を終えて」

榊 那(運営委員)

初めに今回ご先達いただきました鎌田先生、安全かつ実りある合宿が取り行えるようお取り計らい下さいました岡野さま、鳥飼さま、吉田さまの周到なご準備にお礼申し上げます。

初めての夏合宿。主人の父は1981年8月24日に亡くなりました。「ご供養を兼ねて天河の燈籠流しに行くのはどうかしら？」と勧めましたところ快諾を得まして、夫婦揃っての参加となりました。わたくしにとりまして天河大辨財天社は、二回目です。今年の節分祭のとき、厳かな中にも柿坂宮司さまの温かみのある祭事に感銘を受けたのでございます。そんなこともあり、今回は期待に膨らむ再訪となりました。

四泊五日間の夏合宿は万華鏡のよう。毎日は変化に富み、内容の濃いものばかりでした。印象に残りましたいくつかを。

聖地・天河で執り行われました七夕祭りや燈籠流し。お仲間の力も借りながら、父の燈籠を探し出した主人も、父との久しぶりの再会を喜ぶかのようでした。陶芸家の近藤先生の語られる天河火間造営の壮大なご計画。着々と実現化のご様子を目の当たりにしました。近くを流れる天の川での禊は、この地にご縁の出来ましたありがたさを感じたものです。「弘法大師様は生きている」と強い印象を受けた高野山も初めてのお参り。お大師さま霊廟近くの無縁仏の小山のような供養塔。「ぜひ見ていただきたい」と行法師の廣瀬師にご案内いただきました。根来寺では、画僧の牧有恵さまの工房を訪ね、創作過程の作品をハンカチで口を押さえながら拝見させていただきました。普通の旅行では望めない体験です。土生川前官様が導師で進められた無量光院での朝の勤行は密教の祈り。音、光、香りのマンダラです。女性僧、外国人僧も交じってのお勤め。聞くところ、高野山来訪者の三分の一は、イタリアやフランスからとか。まさに日本のパチカン。丹生都比売神社の丹生宮司さまのお話。奥さまと鎌田先生の神殿前でのコラボ演奏。翌日の炎天下、町石道の二ツ鳥居でご馳走になりました完熟ブルーベリーはご夫妻の心がこもった甘露の味が致しました。

日本の伝統を脈々と受け継ぐ聖なる空間。それを守っておられる方々の高い志、精神性、お姿に接し祈りの源流を行く合宿となりました。参加したみなさまのお顔がお写真で拝見しても幸せそう。今回、関わらせていただきました全てに心より感謝しお礼申し上げます。

合掌

「夏合宿」

岡野 恵美子(担当・理事・運営委員長)

2009年度夏合宿は、同行講師・鎌田東二先生がチラシで呼びかけておられた内容そのままに充分に実践され、実現したと感じています。

「空海は修行僧だった青年の頃、高野や天河を彷徨い、姫神たちの神力とネットワークの加護を受けて秘密加持力と情報力を高め、後年、高野山を開山しました。その空海ゆかりの地をめぐるゆきます。

東京自由大学ならではの超豪華キャストの現地案内人の宮司さんや住職さんに導かれて、「目からウロコ」のディープな手法とプログラムで。日本の神仏習合の拠点、天川、高野山、丹生都比売神社etc。神仏の出逢いのかたちをこの身、この心で共に実感しましょう。」

天河大辨財天社には、空海が七千座の護摩で焼いたと伝えられる「灰練り弁天像」が伝えられており、そのご縁の連なりもあり、天河の高倉山の鎮魂殿前に穴窯が現在ご造営中です。私達が手びねりした陶芸作品を、火と水、天と地が結ばれ融合する聖地に造営される天河火間(かま)に入れて焼いていただけることになったのも喜ばしいご縁と思います。

立里荒神の原始の森を、幸運にも井上ウィマラさんが案内してくださり、荒神ヶ岳奥の院まで登拝できたのはありがたいことでした。

高野山では、行法師さん、維那さんのご懇切な説明をいただき、また、金剛峯寺の柏田良辯内事長様には、突然の依頼にも快く応じていただき、壇上伽藍のご案内、また定時を過ぎていたにもかかわらず、金剛峯寺内部をゆっくりと拝観させて頂きました。

無量光院の朝の勤行を体験し、土生川正道前官様のご法話を拝聴できたのは深い印象を残しました。

根来寺でも、急な呼び出しに駆けつけてくださった画僧・牧有恵様の、明るい笑いがはじけるご説明が青空と共に心に沁みています。曼陀羅絵が制作途中のアトリエへの訪問も許してくださり、暖かいお気持ちに包まれた幸せなひとときを過ごしました。

丹生都比売神社の丹生宮司様には、合宿のプランを立てた最初からご相談にのっていただき、大きなご助力をいただきました。宮司様のご支援で、実り多い合宿になり、心より感謝申し上げます。町石道を案内していただき、二ツ鳥居から俯瞰した天野の里の美しさが今も目に浮かびます。

参加者全ての方々、巡り会った神社仏閣の宮司様、僧侶の方々全ての方々へ、暖かいご配慮をいただき、お世話になりましたことを、厚くお礼申し上げます。

合宿終了後9月10日、鎌田東二先生が『神と仏の出逢う国』を刊行されたのもありがたいご縁と感じています。

■編集後記

山口 卓宏(記録担当・運営委員)

今回の夏合宿、面白すぎでした。この世の「赤い糸(ご縁)」が、くっきりはつきり見えました。「神仏像・巨木・神社仏閣等」は、すべて「赤い糸」の具象化なのかもしれない強く思いました。

日 程

8月26日(水)

12:33 下市口駅(近鉄吉野線)集合。マイクロバスにて、丹生川上神社下社参拝。天河大辨財天社・七夕祭りに参加し、燈籠流し。天川民宿「今西」・「名迫」に宿泊。



天河大辨財天・七夕祭

8月27日(木)

午前中陶芸ワークショップ(近藤高弘氏指導)。午後天川溪谷散策、天川にて禊。夜、柿坂神酒之祐宮司・井上ウィマラ氏・近藤高弘氏らと交流。天川民宿「今西」に宿泊。



天河・高倉山の麓の仮設テント



天川にて禊

8月28日(金)

7:20 タクシー7台で天川を出発。立里荒神社・古荒神社参拝。同タクシーにて高野山へ。奥の院(維那さんの法話)。「珠数屋四郎兵衛」にて昼食。午後弁天岳歩行・女人堂・壇上伽藍拝観(根本大塔、金堂、御影堂など)。霊宝 館拝観。宿坊「本王院」に宿泊。夜、ミーティング。



立里荒神社参道



高野山金剛峯寺・壇上伽藍

8月29日(土)

6:00～7:30 朝の勤行(高野山・無量光院)。マイクロバスにて高野山を出発。慈尊院・丹生官省府神社参拝。「青洲の里レストラン」にて昼食(バイキング)。午後、粉河寺・根来寺拝観。仏画師牧有恵氏のアトリエで交流。「美嶋温泉」にて夕食。夜、丹生都比売神社にて、丹生晃市宮司夫妻と交流。「ふれあい会館」に宿泊。



高野山無量光院 土生川前官様と



根来寺・国宝大塔

8月30日(日)

9:00 マイクロバスにて宿舎を出発。丹生都比売神社へ移動し、正式参拝・拝観。「町石道」散策。丹生都比売神社にて昼食(柿の葉寿司)。午後、交流会。15:00タクシーに分乗し「橋本駅」へ。15:30「橋本駅」で解散。



町石道にて